

第2期

名張市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）

パブリックコメント意見募集結果報告

パブリックコメント意見募集結果・・・・・・・・・・ 1ページ

意見交換会等意見概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 2～5ページ

（参考）

意見交換・交流会

～選ばれるなばりのために～・・・・・・・・・・ 6～7ページ

令和元年1月

**第2期名張市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）に係る
パブリックコメント意見募集結果**

令和元年11月26日（火）から12月25日（水）までの間パブリックコメント意見募集しました結果を次のとおり報告します。

案 件	第2期名張市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）		
期 間	令和元年11月26日から12月25日まで		
意見の件数	1件（1人）		
意見の取扱い	その他	素案に反映できないが意見として伺ったもの	1件

【意見の概要】

- 「まちづくり委員会」、「市民センター」、「まちの保健室」、「福祉のまちづくり」など、それらから出来上がった建物と施設。まちと住宅地と田舎に住む人たちの性格はそれぞれ違います。地域ごとに風景、自然環境、生活環境、風習、昔伝説、寺社仏閣など、それぞれに「おらが自慢」の土地柄を有します。「公」がいろいろな施設を作ったが、「私」は消化していますか。人は暇があっても機会がない。人は行きたくても「公」と名のつく場には行きたくない。しかし市内の地域別に「公」が拘ったプロジェクトは盛んです。

また、「おらが自慢」を他の地域に知らせる「まちづくり委員会」など、市内では有能な人が沢山います。「私」を積極的に動かすのは「公」の仕事です。例えば、月当番で地域を割り当て、とんど、タケノコ、ササユリ、ホテル、風景などの「おらが自慢」を競争させてはどうでしょうか。「まち」が変わってくると思います。私も参加させていただきます。

【意見の取扱い：その他】

各地域において特色を生かした地域づくり活動が行われていますが、その好事例を把握し、他の地域へ広く情報発信を行うことは、更なる地域の活性化と魅力向上につながると考えます。取組の結果だけでなく、手順やプロセスなど丁寧な情報提供を図るよう努め、訪れたい、住み続けたいと思っただけの地域づくりを進めてまいります。

第2期名張市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）意見交換会等 意見概要

令和元年11月26日（火）から12月25日（水）までのパブリックコメント実施期間中に次の団体へ説明を行い、意見交換会等を実施しました。

開催日時	令和元年12月12日（木）13:00～
場 所	名張商工会議所
団体名等	役員会
参加人数	30名
意見の件数	0件

○事務局から総合戦略概要を説明し、意見についてはパブリックコメント期間中に事務局まで頂戴できるよう依頼を行いました。

開催日時	令和元年12月16日（月）15:00～		
場 所	市役所 庁議室		
団体名等	地域づくり代表者会議		
参加人数	30名		
意見の件数	6件（2人）		
意見の取扱い	修正	素案を修正するもの	0件
	既記載	既に素案に盛り込んでいるもの	2件
	参考	素案に盛り込めないが、今後の参考とするもの	1件
	その他	素案に反映できないが意見として伺ったもの	3件

【意見の概要】

○市の計画や3つの重点プロジェクトにおける各種取組の中において、地域づくり組織は一つ一つ色々な部分で担っていると思うが、地域づくりの位置づけとしてはどのように考えているか。

【意見の取扱い：その他】

総合戦略の3つの重点プロジェクトにおいては、人口減少と少子高齢化社会の克服に向け、地方創生を目指し各施策に取り組んできました。今般、策定する第2期総合戦略では、「継続は力なり」という姿勢を基本として、第1期での取組を継続し地方創生の動きを更に加速させていくこととしています。地方創生の取組を継続・発展させていくためには、地域コミュニティづくりを推進

する各種施策の維持・強化と、地域課題の解決に向けた活動を支援する必要があると考えます。これまでの具体的な例としましては、赤目四十八滝キャンプ場を整備し、市と地域が連携して「観光地域づくり」の推進に取り組んでまいりました。各地域で特色を生かした取組の中で、新たな魅力の創出が図れるよう、引き続き連携してまいります。

【意見の概要】

- 市と連携の中で、赤目地域では観光分野での取組、また、名張地域では空家対策を含めた取組など行っているが、現在、各地域での様々な地域課題に取り組んでいる中で、今後は更に拡大していけるように連携を図っていただきたい。地域の中においては、把握していることでも、全体の中では共有できていない部分もあるので、地域づくり代表者会議などの場においても情報提供をしていくのも必要ではないか。

【意見の取扱い：参考】

名張、赤目、桔梗が丘地区の空家対策・移住定住のモデル地区としての取組については、引き続き、担当部局とも連携して進めてまいります。また、各地域における取組の好事例を把握し、他の地域へ広く情報発信を行うことは、更なる地域の活性化と魅力向上につながると考えますので、より効果的に情報提供が行えるよう、その手法や機会について検討をさせていただきます。

【意見の概要】

- 「移住定住」の促進と言いながら、地域での具体的な取組が見えてこない部分もあるのでは。

【意見の取扱い：既記載】

本市では、これまで移住に関する相談や情報提供をワンストップで行うなど移住定住の促進に取り組んできましたが、空家情報や受入地域の環境に関する情報提供などにおいて、地域との連携が重要であると考えております。また、第2期の総合戦略では、将来的な移住につながるよう特定の地域に多様な形で関わる「関係人口」の創出を掲げております。引き続き、地域と連携を図り、移住定住の促進に加え、地域活動を通じた関わりを創出や地域を支える担い手の確保を図る仕組みの構築など検討してまいります。

【意見の概要】

- 人口減少の対策において、人の流れをつくるには、名張には仕事もあるし、それなりの生活できるし、教育などの環境も整備されている・・・という受け皿を整える必要がある。今、名張に何が足りないかというと、関空から1時間半という好立地な条件があるのに、インバウンドをしても、宿泊するところ、遊ぶところなど、お金を落としてもらう仕組みがない。その仕組みができれば、地元の人々の雇用も生まれるし、お金がまわっていくので、そういうシステムを作る必要がある。

【意見の取扱い：その他】

総合戦略の具体的な施策において、外国人誘客の推進については数値目標として設定するなど、引き続き取り組んで行くこととしています。いただきましたご意見のとおり、関空からのアクセスの良さといった本市の強みを生かせるよう情報発信に努めるとともに、関係機関や事業者等と連携した新たな人の流れを創出する仕組みづくりについて研究・検討してまいります。

【意見の概要】

- 赤目に観光旅館はあるが、外国人は高くて宿泊しない。安価で泊まれる宿泊先があれば、もっと人を呼び込んで、賑わいができると思う。

【意見の取扱い：既記載】

赤目四十八滝へ訪れる外国人の数は、平成30年は2,924人となっており、総合戦略においても外国人誘客の推進について掲載しているところです。さらに、第2期の総合戦略においては、「忍者」をはじめとした地域資源を活用した体験・滞在型の新たな観光コンテンツの創造に取り組むこととしています。今年の東京オリンピック・パラリンピックの開催も追い風として、さらに宿泊先はもとより、食習慣や言語など外国人に対応できる受入環境の整備に取り組んでまいります。

【意見の概要】

- この度の黒田の名張川引堤工事の起工式が行われ、「川のまち」構想の話にもあったとおり、三重県の観光の西の玄関口としての役割も期待されている。人を呼ぶという大きな観点からも、事業がスムーズに運ぶため、国と連携して進めていただければと思う。

【意見の取扱い：その他】

昨年12月15日「名張かわまちづくり一体型浸水対策事業」の起工式が行われました。本工事では、名張地区の浸水被害の可能性を大幅に低下が期待されるとともに、親水護岸の整備工事における「親水空間」の整備では、観光振興及び地域活性化の促進が期待される所です。本市におきましても、本事業がスムーズに運ぶよう、国や県、地域との連携を図るとともに、「水源都市名張」の魅力発信にも努めてまいります。

参 考

意見交換・交流会 ～選ばれるなばりのために～

開催日時	令和元年12月14日（土）13：30～
場 所	やなせ宿（新町）
参加者	名張市民（生まれも育ちも名張人、移住者）、名張に移住を考えている市外の方
参加人数	16名

＜意見の概要＞

- お米、お酒など、「名張産」をアピールしていくべき。
- 人口の転出抑制を図るためには働く場所が必要。もっと働く場所のPRが必要である。
- 東京で開催する移住フェアをはじめとするPRイベントにおいて「名張」の知名度はどの程度あるのか。都会の生活に疲れて地方での生活を考えている相談者に対して、どのようなアクションをしていくか。
- 人と人とのつながりを創り、人を起点としたイベントで交流を通じて、移住定住につなげることができると思う。
- 名張でしかできないことがあれば、その目的をもって人が流れてくる。旧町の「からすうり」で行っている乱歩のイベントには、九州などの遠方からの参加者をはじめ市外から多くの参加がある。目的を創ることでリピーターの増加が図れるのでは。
- 名張の中心街の旧町も空家が増えて歯抜け状態になってさびれている。旧町が元気になることで名張全体が元気になると思っている。旧町の中に子ども世代が少なくなっているので、他の地域と連携してつながりをもって、団地の住民の方々にも応援してもらえるようにできれば。
- 名張地区の空き家をもっと活用すべきである。
- 地域イベントに地域の子供たちがボランティアとして参加できるようになれば。ジュニアリーダーの仕組みをもっと活用できないか。
- 小・中学校で取り組んでいる「なばり学」を高校でも取り入れては。
- 小・中学校の生活で、いい思い出ができれば「ふるさと」になる。
- 大人の世代にも名張の魅力を知ってもらうため「なばり学」を学ぶ機会があれば。
- 高校生は部活や塾などで忙しく地域活動への参画は難しい。若い世代、現役世代の地域活動の参加が少なので、もっと地域の貢献に参加してもらえるように話をしてもらえる機会があれば。
- イベントを通してヒトの魅力を発信していくべき。（例：着物イベント）

案 件	第2期名張市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）
意見の件数	1件（1人）
意見の取扱い	パブリックコメント期間外の受付であったため、参考意見とさせていただきます。

- 「住んでよし」と発信することについて、名張市はとても適した環境と感じています。私の周りに10名ほど移り住んできた方がいますが、皆「住みやすい」と言っています。そんな「住んでよし」の名張市で不安なことが1点あります。それは水害対策です。河川の拡張工事は進んでいるようですが、上流の青蓮寺ダム、比奈知ダムの貯水量が堆積する土砂で減ってきているようです。繰り返す台風による上流からの流入に加え、ダム周辺の崩落によって土砂が流れ込んでいます。川上ダムの建設目的も「既設ダムの堆砂除去のための代替補給を行います」と書かれていますが、川上ダムの完成予定が2023年と3年以上かかり、それまでに大型台風が直撃する可能性は昨今高いと言わざるを得ないと思います。早急に名張市内に流れ込む河川の上流の青蓮寺ダム、比奈知ダムの堆砂除去を検討、実施頂くことで「住んでよし」の名張市で市民が安心して暮らせ魅力ある名張市になれると思います。